

科目名	がん看護学実習 I Oncology Nursing Practice I
授業形態	実習
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	秋BC学期 応談
実施場所	実習施設(筑波大学附属病院、国立がん研究センター東病院等)
単位数	2単位
担当教員名	山下美智代 Yamashita Michiyo 水野道代 Mizuno Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に予定を確認の上で訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	がん診療の場で、医師とともにアセスメント・医学診断を行いながら、患者に必要な医療を判断し、適切な看護援助を提供する力を養う。また、医師の診療に関わる中で機会をみつけ、地域で暮らすがん患者と家族の療養生活を他職種と協力して支援するための援助方法について学び、援助計画を作成し方略を検討できる。
他の授業科目との関連	
履修条件	専門看護師養成プログラム(がん看護)の受講者であること。
授業概要	専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、がんの診断・治療に関わる臨床場面(診療や症例・退院調整カンファレンス等)を通して、がん患者の療養管理をするために必要な能力を習得する。
キーワード	セスメント、医学診断、身体管理、療養管理
授業計画	1 高度ながん医療を学べる施設内の部署において実習を行う。 2 がん患者のうち主に、緩和ケアを受けている患者、がん薬物療法中の患者、がん放射線治療中の患者の診療場면을複数見学する。 3 実習目標に沿って、臨床指導者と相談しながら実習計画を立てる。 4 がん診療の場において、診断や治療方針の決定に至るまでの思考過程や患者の療養管理上の問題・必要事項を分析・考察し、記録する。 5 常に実習計画の実施状況を振り返りながら実習目標の達成に向け実習計画の修正を行う。 6 がん看護学実習 I の実践内容については、実習要項の書式に従い、その成果を報告する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実習期間にとらわれることなく、実習施設等のがん看護に関連する医療活動に関わる機会を積極的にもちこつことも必要である。
成績評価方法	実習計画書の作成、実習計画書にもとづいた実習、最終レポートの提出とする。 評価方法と評価配分 実習目標の達成度70%、カンファレンス10%、最終レポート20% 評価基準 1 がん診療の場に立会い、患者の主訴や身体・検査所見などを統合し、診断や治療方針の決定に至るまでの医師が行う臨床判断過程を理解することができる。 2 これまでに学んだ医学的知識および様々な診療技術を活用して、また医師とのコミュニケーションを通して、がん患者の身体状況を的確にアセスメントすることができる。 3 医学アセスメントに基づいて患者の療養管理上の問題や必要な支援内容を特定し、医師と協働しながら療養管理のための方略を検討することができる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～3を自身で達成、評価し、新たな自己の課題を明確にできる A 上記1～3を自身で達成し、自己および他者評価も踏まえた上で、達成度を評価できる B 上記1～3をほぼ自身で達成できる C 上記1～3を教員の指導を受けながら概ね達成できる D 上記1～3について教員の指導のもとでも達成できない
教材・参考文献・配布資料等	これまでの学習において使用した著書や文献を各自で効果的に活用すること。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	関連著書や論文を十分に活用し、積極的・主体的に実習に臨むこと。